

国立研究開発法人森林総合研究所の評価軸・評価の視点（案）

I 中長期目標に係る評価軸（目標第3関連）

目 標	評価軸	評価指標、モニタリング指標
第3 研究開発の成果の最大化その他の業務の質の向上に関する事項 1 研究開発業務 (1) 研究の重点課題 ア 森林の多面的機能の高度発揮に向けた森林管理技術の開発	<評価軸1> ・取組又は成果は国の施策や社会的ニーズに合致しているか。 <評価軸2> ・研究開発成果等の普及に貢献しているか。	(評価指標) ・国の施策や社会的ニーズに対応した具体的な取組又は成果の事例 (モニタリング指標) ・行政機関との研究調整会議等の実施状況 ・外部資金等による研究課題件数及び金額 ・学術論文、学会発表等による研究成果の発信状況 (評価指標) ・研究開発成果等の普及促進への取組実績 (モニタリング指標) ・講演会、出版物（技術マニュアル等）による成果の発信状況 ・技術指導、研修会等への講師等派遣状況 ・調査、分析、鑑定等の対応件数
イ 国産材の安定供給に向けた持続的林業システムの開発	<評価軸1> ・取組又は成果は国の施策や社会的ニーズに合致しているか。 <評価軸2> ・研究開発成果等の普及に貢献しているか。	(評価指標) ・国の施策や社会的ニーズに対応した具体的な取組又は成果の事例 (モニタリング指標) ・行政機関との研究調整会議等の実施状況 ・外部資金等による研究課題件数及び金額 ・学術論文、学会発表による研究成果の発信状況 (評価指標) ・研究開発成果等の普及促進への取組実績 (モニタリング指標) ・現地適用試験の実施状況 ・講演会、出版物（技術マニュアル等）に

		よる成果の発信状況 ・技術指導、研修会等への講師等派遣状況
ウ 木材及び木質資源の利用技術の開発	＜評価軸１＞ ・取組又は及び成果は国の施策や社会的ニーズに合致しているか。 ＜評価軸２＞ ・研究開発成果等の普及に貢献しているか。	(評価指標) ・国の施策や社会的ニーズに対応した具体的な取組又は成果の事例 (モニタリング指標) ・行政機関との研究調整会議等の実施状況 ・外部資金等による研究課題件数及び金額 ・学術論文、学会発表による研究成果の発信状況 (評価指標) ・研究開発成果等の普及促進への取組実績 (モニタリング指標) ・講演会、出版物（技術マニュアル等）による成果の発信状況 ・技術指導、研修会等への講師等派遣状況 ・調査、分析、鑑定等の対応件数
エ 森林生物の利用技術の高度化と林木育種による多様な品種開発及び育種基盤技術の強化	＜評価軸１＞ ・取組又は成果は国の施策や社会的ニーズに合致しているか。 ＜評価軸２＞ ・研究開発成果等の普及に貢献しているか。	(評価指標) ・国の施策や社会的ニーズに対応した具体的な研究事例及び品種等の開発 (モニタリング指標) ・行政機関との研究調整会議等の実施状況 ・外部資金等による研究課題件数及び金額 ・開発品種等の種類と数及び学術論文等による研究成果の発信状況 (評価指標) ・研究開発成果、技術及び開発品種の普及取組状況 (モニタリング指標) ・講演会、出版物（技術マニュアル等）による成果の発信状況 ・講師派遣等による都道府県等への技術指導の実施状況 ・要望に基づく種苗の配布状況
(２) 長期的な基盤情報の収集、保存、評価並びに種苗の生産及び配布	＜評価軸１＞ ・長期的な基盤情報や林木等の遺伝資源の収集等が適切に行われているか。	(評価指標) ・長期的な基盤情報や林木等の遺伝資源の収集、保存、特性調査の取組状況 (モニタリング指標) ・研究基盤となる情報の収集、整備状況 ・研究基盤となる情報の公開・活用状況

	<評価軸 2> ・要望に基づく種苗が適切に配布されているか。	・林木等の遺伝資源の収集、保存、特性調査の実績 <評価指標> ・種苗配布の取組事例 <モニタリング指標> ・配布した種苗の種類及び本数 ・要望に基づく種苗の配布状況
(3) 研究開発成果の最大化に向けた取組 ア 「橋渡し」機能の強化 イ 研究開発成果等の社会還元 ウ 研究課題の評価、資源配分及びPDCAサイクルの強化	<評価軸 1> ・橋渡し機能の強化につながる体制の構築及び研究成果の社会還元に取り組んでいるか。 <評価軸 2> ・評価に基づき適切な資源配分を行うシステムが構築・運用されているか	(評価指標) ・産学官連携及びハブ機能を推進する体制の整備・運用状況 ・研究開発成果等の森林・林業・木材産業における活用事例 ・講師、分析、鑑定等依頼への対応状況 (モニタリング指標) ・大学や民間等との共同研究の件数 ・国際会議、国際交渉等への対応状況 ・講習、研修の実施件数、講師派遣件数 ・調査、分析、鑑定等の件数 (評価指標) ・評価に基づく予算・人員等の資源を的確に配分するシステムの構築、運用状況 (モニタリング指標) ・研究課題・資源配分の見直し状況 ・研究評議会、研究評価会議等の開催状況

Ⅱ 中長期目標に係る評価の視点（目標第４、第５及び第６関連）

目 標	評価の視点	評価指標
第３ 研究開発の成果の最大化その他の業務の質の向上に関する事項 ２ 森林保険業務 (１) 被保険者へのサービスの向上	<評価の視点> ・ 森林保険契約の引受や保険金の支払い等について、被保険者へのサービスの向上を図る取組を行っているか。 ・ 保険金の支払いを迅速に行うための取組を行っているか。	(評価指標) ・ 森林保険契約の引受や保険金の支払い等に必要な手続きを簡素化、効率化するための見直しを行っているか。 ・ 森林保険契約の引受や保険金の支払い等の事務についてシステム化等により効率化するための見直しを行っているか。また、マニュアルの作成や事務を円滑に行うための研修等を定期的に行っているか。 ・ 基本的に損害発生通知書を受理してから調査完了までを３ヶ月以内に行っているか。
(２) 加入促進	<評価の視点> ・ 森林保険の加入促進に向けた継続的な取組を、森林所有者のみならず森林経営計画作成者等を含めた林業関係の関係諸機関も対象として幅広く行っているか。	(評価指標) ・ 森林保険の加入促進に係る戦略を作成し、また定期的に見直しを行っているか。 ・ 定期的にホームページの更新を行っているか。 ・ 年間当たりの広報誌の発行回数 ・ 年間当たりの広報媒体配布先数 ・ 年間当たりの主要な契約対象者向けの普及活動等の実施回数 ・ 年間当たりの森林保険の窓口対応者（森林組合系統）の能力向上を図る研修等の実施回数 ・ 加入率の状況
(３) 引受条件	<評価の視点> ・ 保険運営の安定性の確保、被保険者へのサービスの向上に向けて、引受条件の見直しを適切に行っているか。	(評価指標) ・ 毎年一回以上、見直しの必要性について外部有識者を含めた委員会等で検討を行っているか。
(４) 内部ガバナンスの高度	<評価の視点>	(評価指標)

化	・財務の健全性及び適正な業務運営は確保されているか。	・外部有識者等を含めた委員により構成されるリスク管理を行うための委員会を年2回以上定期的に開催しているか。 ・また、上記委員会とは別に、財務上、業務運営上の課題について役員を含めて検討する会議を定期的に行っているか。
3 水源林造成事業 (1) 水源林造成事業の推進 ア 事業の重点化	<評価の視点> ・特に水源涵養機能^{かん}の強化を図る重要性が高い箇所において新規契約を締結しているか。	(評価指標) ・新規契約件数及び面積のうち、特に水源涵養機能^{かん}の強化を図る重要性が高い箇所での実施率（重点化率）
イ 事業の実施手法の高度化のための措置	<評価の視点> ・新規契約については、広葉樹等の現地植生を活かした長伐期で、かつ、主伐時の伐採面積を縮小、分散化する契約としているか。 ・既契約地については、長伐期施業等への契約変更を推進しているか。 ・事業実施過程の透明性の確保を図りつつ、事業の効果的・効率的な実施に努めているか。 ・地球温暖化防止、循環型社会の形成、林業の成長産業化等に資する観点から、搬出間伐を推進するとともに、作業道の丸太組工法などにおいて、木材利用を推進しているか。	(評価指標) ・新規契約件数及び面積のうち、長伐期等の施業に限定した割合（施業方法の限定化率） ・長伐期施業等への契約変更件数及び面積 ・チェックシートを活用し、新植・保育等施業を実施した割合（チェックシート活用率） ・全間伐面積に対する搬出間伐面積の割合（搬出区域面積率）、作業道の丸太組工法での木材使用量
(2) その他完了した事業の評価及び債権債務の管理 ア 特定中山間保全整備事業等の事業実施完了後の評価に関する業務	<評価の視点> ・完了後の評価に係る業務が確実に行われているか。	(評価指標) ・完了後の評価に係る業務実施区域数 ・完了後の評価の実施区域数
イ 債権債務管理に関する業務	<評価の視点> ・債権債務管理が適切に行われているか。	(評価指標) ・予定した各徴収額等に対する林道事業負担金等の徴収額・特定中山間保全整備事

		業等負担金等の徴収額・N T T－A資金貸付金の回収額
第4 業務運営の効率化に関する事項 1 一般管理費等の節減 (1) 研究開発業務	<評価の視点> ・業務の見直し・効率化を進め、研究開発業務に支障を来すことなく一般管理費、業務経費の節減に努めているか。	(評価指標) ・一般管理費節減状況、業務経費節減状況
(2) 森林保険業務	<評価の視点> ・コスト意識を徹底し、効率的な業務運営を図り、将来的な一般管理費等のスリム化につなげる取組を行っているか。	(評価指標) ・一般管理費等のスリム化に向けた取組の実施状況。
(3) 水源林造成事業等	<評価の視点> ・水源林造成事業を巡る諸情勢を踏まえつつ、水源涵養等の公益的機能の発揮に向けた効果的な業務運営に支障を来すことのない範囲で節減に努めているか。	(評価指標) ・一般管理費
2 調達合理化	<評価の視点> ・毎年度策定する「調達等合理化計画」に基づき、重点的に取り組む分野における調達の改善等を着実に実施しているか。	(評価指標) ・各年度策定する調達等合理化計画に定められた評価指標
3 業務の電子化	<評価の視点> ・電子化の促進等により事務手続きの簡素化・迅速化を図り、利便性の向上に努めているか。 ・研究所内ネットワークの充実を図っているか。	(評価指標) ・事務手続きの電子化状況 ・テレビ会議等の開催回数
第5 財務内容の改善に関する事項 1 研究開発業務	<評価の視点> ・業務達成基準の導入、セグメント管理の強化に対応した会計処理方法が適	(評価指標) ・予算配分方針と実績 ・セグメント情報の開示状況

	切に定められているか。 それに従って運営されているか。 ・受託研究等の外部研究資金の確保等による自己収入の増加に向けた取組が行われているか。	・外部研究資金の実績 ・特許料、入場料等の自己収入実績 ・施設利用料の収入実績
2 森林保険業務 (1) 積立金の規模の妥当性の検証と必要な保険料率の見直し	<評価の視点> ・リスク管理のための委員会において、毎年度積立金の規模の妥当性の検証を行っているか。 ・必要に応じて保険料率の見直しを行っているか。	(評価指標) ・毎年度積立金の規模の妥当性の検証を行い、その結果を農林水産大臣に報告しているか。 ・必要に応じて保険料率の見直しが行われているか。
(2) 保険料収入の増加に向けた取組	<評価の視点> ・森林保険業務の安定的な運営に向け、加入促進等による保険料収入の増加に向けた取組を行っているか。	(評価指標) ・第3の2(2)加入促進に準じた内容 ・継続契約の増加に向けた取組の実施状況 ・保険料収入の額
3 水源林造成事業等 (1) 長期借入金等の着実な償還	<評価の視点> ・当期中長期目標期間中に長期借入金及び債券について確実に償還しているか。 ・事業の透明性や償還確実性を確保するため、債務返済に関する試算を行い、その結果を公表しているか。	(評価指標) ・当期中長期目標期間中(各年度)の償還計画に対する長期借入金及び債券の償還額 ・債務返済の見通しに関する試算及びその結果の公表に向けた検討及び実績
(2) 業務の効率化を反映した予算の作成及び運営	<評価の視点> ・「業務運営の効率化に関する事項」を踏まえた中長期計画の予算作成し、効率的な運営を行ったか。	(評価指標) ・「業務運営の効率化に関する事項」を踏まえた中長期計画の予算の作成がなされ、効率的な運営を行うための取組を行っているか。
4 保有資産の処分	<評価の視点> ・保有の必要性の観点から保有資産の見直しがおこなわれているか。また、処分することとされた保	(評価指標) ・保有資産の点検及び処分状況

	有資産についてその処分は進捗しているか。	
第6 その他業務運営に関する重要事項 1 研究開発業務、森林保険業務及び水源林造成事業における連携の強化 (1) 研究開発と森林保険の連携 (2) 研究開発と水源林造成事業の連携	<評価の視点> ・森林の自然災害に関する専門的知見を活用した森林保険業務の高度化がなされているか。 ・水源林造成事業地を研究開発のフィールドとして活用し研究開発を推進しているか。 ・検討会等を通じ、研究開発の成果・知見を活用して水源林造成事業における森林整備技術の高度化を図るとともに、森林所有者や林業事業体への研究成果の「橋渡し」に取り組んでいるか。	(評価指標) ・研究開発部門と森林保険部門が連携した取組を計画的に行っているか。 ・連携した取組の成果が共有され、森林保険業務に反映されているか。 ・水源林造成事業地をフィールドとして活用した研究開発の事例 ・研究開発の成果・知見を活用して水源林造成事業における森林整備技術の高度化を図るために取り組んだ事例
2 行政機関や他の研究機関等との連携・協力の強化	<評価の視点> ・行政機関や他の研究機関との連携の仕組が適切に構築、運用されているか。	(評価指標) ・行政機関と計画段階から連携し、行政ニーズが反映されているか。 ・行政機関等と連携した取組の実施状況 ・緊急時の連携会議、専門家派遣の対応状況 ・他の研究機関等との連携協力状況（環境研究連絡会、築協等の実績等）
3 広報活動の促進	<評価の視点> ・森林総研が国民に広く認知されるための広報の取組が行われたか。	(評価指標) ・公表したプレスリリース数 ・ウェブサイト等による発信数 ・第3の2（2）加入促進に準じた内容 ・森林・林業・木材研究に関する問い合わせ等への対応状況
4 ガバナンスの強化 (1) 内部統制システムの充実・強化 (2) コンプライアンスの推進	・各業務・事業の特性に応じた内部統制システムの充実・強化が図られているか。 ・法人におけるコンプライアンス徹底のための取組、	・内部統制システムの充実・強化の取組状況 ・法令遵守などのコンプライアンスの取組状況

	研究上の不適正行為を防止するための取組が適切に行われているか。	
5 人材の確保・育成 (1) 人材の確保・育成	<評価の視点> ・各業務において、必要とする人材を確保しているか。 ・各種研修等を計画的に実施し、高度な専門知識と管理能力を有する職員を育成しているか。 ・男女共同参画の取組、ワークライフバランス推進の取組等を行っているか。	(評価指標) ・研究開発業務における多様な人材の確保、育成するための取組状況、クロスアポイントメント制度などの活用による人材交流の状況 ・森林保険業務において、林野庁、損害保険会社、森林組合系統からの出向等により、森林保険業務の適正な実施に必要な職員を確保しているか。 ・水源林造成事業の適正な実施に必要な職員数を確保しているか。 ・職員の研修等を計画的に行っているか。 ・男女共同参画の取組状況 ・各種研修の実施状況
(2) 人事評価システムの適切な運用	<評価の視点> ・職員の業績及び能力評価を適切に行っているか。研究職員については、研究業績のみならず、研究開発成果の行政施策や技術移転活動等への貢献に応じた評価を行っているか。また、人事評価結果を適切に処遇へ反映しているか。	(評価指標) ・人事評価の実施状況 ・人事評価結果の処遇への反映状況
(3) 役職員の給与水準等	<評価の視点> ・研究開発業務におけるクロスアポイントメント制度などの柔軟な報酬・給与体系の導入に向けた取組は適切に行われているか。給与水準は適切に維持され、説明責任が果たされているか。	(評価指標) ・研究開発業務におけるクロスアポイントメント制度などの柔軟な報酬・給与体系の取組状況 ・ラスパイレス指数
6 情報公開の推進	<評価の視点> ・法人運営についての情報公開の充実に向けた取組や情報公開を適切に行っ	(評価指標) ・情報公開対応状況 ・民間の損害保険会社が行っている情報公開状況や日本損害保険協会策定のディス

	ているか。 ・森林保険業務に関する情報公開において、民間の損害保険会社が行っている情報公開状況や日本損害保険協会策定のディスクロージャー基準を参考にしているか。	クローージャー基準と照らし合わせて、公表事項に過不足がない情報公開となっているか。
7 情報セキュリティ対策の強化	＜評価の視点＞ ・政府機関の情報セキュリティ対策のための統一的な基準群を踏まえた情報セキュリティは適切に確保されているか。 ・情報システム、重要情報への不正アクセスに対する十分な堅牢性を確保しているか。 ・個人情報の保護を適切に行っているか。	（評価指標） ・情報セキュリティ取組状況 ・不正アクセスへの対応状況 ・職員研修の実施状況
8 環境対策・安全管理の推進	＜評価の視点＞ ・研究開発業務において、化学物質、生物材料等を適正に管理するシステムが構築されているか。化学物質等の管理に関する問題が生じていないか。 ・資源・エネルギー利用の節約、リサイクルの徹底など環境負荷軽減のための取組等の内容を明確にし実施しているか。 ・職場安全対策及び安全衛生に関する管理体制が適切に構築・運用されているか。災害等における緊急時の対策が整備されているか。 ・水源林造成事業については、事業者等の労働安全衛生の確保に努めているか。	（評価指標） ・環境負荷低減のための取組状況 ・事故、災害を未然防止する安全確保体制の整備状況、安全対策の状況 ・事業者等への労働安全衛生に関する指導の取組状況

9 施設及び設備に関する事項	＜評価の視点＞ ・省エネの推進、長期的な維持管理経費の節減や安全確保に向けて、必要な施設・設備の整備計画を適切に策定し、取組が行われているか。	（評価指標） ・省エネ推進、維持管理経費の節減、安全対策等に資する施設・設備の最適化への取組状況 ・整備の実施状況
-----------------------	--	---